

三重大学における生成 AI の活用を目指した教職協働チームの発足とその取り組み

白井 伸宙, 池田 真樹, 田ノ上 飛翔, 平山 亮, 江川 昂明, 中澤 利之, 三角 太郎

三重大学

shirai@cc.mie-u.ac.jp

Launching a Faculty–Staff Collaborative Team to Advance the Use of Generative AI at Mie University: Formation and Projects

Nobu C. Shirai, Masaki Ikeda, Tsubasa Tanoue, Ryo Hirayama, Takaaki Egawa, Toshiyuki Nakazawa, Taro Misumi

Mie Univ.

概要

本稿では、三重大学において 2024 年 11 月に発足した「生成 AI 活用検証イニシアチブ (GAUTI)」の組織運営と取り組みについて報告する。GAUTI は、大学組織全体における生成 AI の活用方法を体系的に探求する教職協働チームであり、教員・技術職員・事務職員が連携する体制を構築している。主な活動として、(1) 学内の生成 AI 利用実態調査、(2) クラウドストレージを介したファイル自動処理システムの構築・運用、(3) 教育・研究・業務運営区分ごとのプロンプト集作成、(4) プロンプトテンプレートを活用した会議における生成 AI 活用のモデルケース開発を実施している。また、アジャイル・テスト・パートナーズと呼ばれるテストユーザグループを設立し、実践的な検証体制を整備した。生成 AI 活用の検証を通して得られた知見やプログラム実装は公式 Web サイトや GitHub リポジトリで学内外に積極的に公開している。本チームの取り組みは、国立大学法人における教職協働による生成 AI 検証の先駆的事例として、他の高等教育機関における類似の取り組みの参考となることが期待される。

1 はじめに

高等教育機関が直面する多様な課題に対して、生成 AI 技術は新たな解決策を提示する可能性を秘めている。近年の ChatGPT をはじめとする生成 AI の目覚ましい発展により、大学における教育・研究・業務の効率化や質向上への期待が高まっている。一方で、これらの技術を安全かつ効果的に導入・運用するための方法論や組織体制については、各機関が独自に検討を進めているのが実情である。

このような背景のもと、三重大学では 2024 年 11 月に「生成 AI 活用検証イニシアチブ (Generative AI Utilization Testing Initiative: GAUTI)」を発足させた*1。本チームは、三重大学の教育・研究・事務業務等における生成 AI の活用方法を検討し、その効果や課題を明らかにしながら、得られた知見とノウハウを

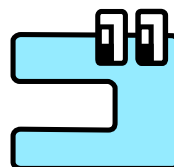


図 1 GAUTI のマスコットキャラクター「ゴチ」 [2]。CC BY 4.0 ライセンスで公開。

学内外に広く共有することを目的としている。有志の教員・技術職員・事務職員による教職協働チームであり、他の大学組織ではまだ類を見ない先駆的な取り組みであると考えている。

本稿では、GAUTI のこれまでの具体的な活動および公開しているリソースを共有し、他組織で同様のチームを構成する際に役立つ情報を提供することを目指す。

2 GAUTI の発足経緯と組織体制

以下に、GAUTI の発足経緯と組織体制について述べる。GAUTI の構想は、チームリーダーの情報基

*1「GAUTI」という名称自体も ChatGPT に提案を求め、複数の候補から選定したものである [1]。これは生成 AI 活用チームの命名に生成 AI を利用するという、取り組みの理念を象徴する試みでもあった。GAUTI の読み方は「ゴーチ」である。

盤センター教員（本稿第一著者）によって提案された。ChatGPT の登場以降、生成 AI を業務に必要なプログラミングに活用 [3] していた同教員は、AXIES 国際連携室主催の EDUCAUSE カンファレンス派遣事業の派遣団員として参加した 2024 年 10 月の EDUCAUSE カンファレンス [4] を経て、生成 AI の大学一般業務への活用について検討を始めた。この検討を進める中で、学内で生成 AI をすでに活用している人材を発掘し、目まぐるしく進展する生成 AI 技術の動向について議論しながら継続的にフォローアップする体制を構築することが重要であるとの認識に至った。

GAUTI の発足は 2024 年 10 月に具体化した。学長より「生成 AI を有償のものも含めて試験的に導入し、課題を抽出してほしい」との意向が示されていたことも追い風となり、10 月 30 日には情報システム会議において GAUTI の構想が説明され、情報担当理事による学長・理事会議での報告を経て、メンバー候補の上司への直接的な依頼が行われた。ボトムアップの提案とトップダウンの要請がうまく噛み合った形であった。

2024 年 11 月 20 日に情報担当理事直下の組織として GAUTI が正式に発足した。初期メンバーは教員 1 名、技術職員 1 名、事務職員 3 名の計 5 名で構成された。その後、2025 年 6 月に事務職員 1 名が加わり、さらに同年 8 月には事務系各部署との連携強化を図るため、部長級の管理職をメンバーとして迎え入れ、現在は 7 名体制で活動している。この体制により、現場レベルから組織運営レベルまでを包含する包括的な生成 AI 活用検証が可能となっている。

チームの運営方針として、本務優先、教職協働、透明性の確保、脱属人化を掲げている。特に教職協働については、教員・技術職員の学術的・技術的視点と事務職員の現場実務視点を融合させることで、実践に基づく生成 AI 活用を探求する体制を構築している。このような本格的な教職協働による生成 AI 検証の取り組みは、国立大学法人において先例が少なく、GAUTI の特徴的な強みとなっている。また、透明性の観点から、打ち合わせの記録はすべて動画で保存し、メンバーや学内希望者が閲覧できる体制を構築した。さらに、活動内容や得られた知見については積極的に公開し、動画や GitHub リポジトリを通じて学内外への情報発信を行っている [5]。

3 テストユーザグループの設立

GAUTI の活動をより実践的かつ効果的に進めるため、アジャイル・テスト・パートナーズと呼ばれるテストユーザグループを設立した。このグループは、GAUTI が開発・検証する各種サービスや手法について、実際の業務現場での試用とフィードバックを提供する役割を担っている。

アジャイル・テスト・パートナーズは、学内で参加を募り、現在約 10 名の有志事務職員で構成されている。このグループの協力により、開発したシステムやサービスの実用性を早期に検証し、ユーザの声を反映した改善を迅速に実施できる体制を構築している。特に後述する学内ファイル自動処理システムの開発・改良においては、テストユーザからの継続的なフィードバックが重要な役割を果たした [6]。

さらに、アジャイル・テスト・パートナーズに参加すること自体にも意義がある。参加者は、生成 AI をはじめとする最新の技術動向に関する情報をいち早く得られるとともに、参加者自身の知見や経験を発信することで他のメンバーや開発側に貢献できる。このような間接的にプロジェクトに関与できる仕組みは、個々の専門性の深化だけでなく、組織全体としての知識蓄積とエンゲージメントの向上にもつながると考えられる。

4 具体的な取り組み

本稿執筆時点で実施している取り組みは、主に以下の 4 つである：(1) 生成 AI に関する利用実態調査の実施、(2) 学内ファイル自動処理システムの構築・運用、(3) 教育・研究・業務運営区分ごとのプロンプト集作成、(4) プロンプトテンプレートを活用した会議における生成 AI 活用のモデルケース開発である。

GAUTI では Microsoft Teams 上で GAUTI 専用チームを用いた情報交換と月 1 回の定例ミーティングを基軸とし、個人プロジェクトの進捗状況や生成 AI に関する最新情報を共有し意見交換を行っている。GAUTI のミーティング自体が生成 AI の活用についての実験を行う場となっており、図 2 で実施しているミーティングでは Microsoft Teams のライブ文字起こし機能に関する検証実験を行っている。

4.1 生成 AI に関する利用実態調査の実施

2024 年 11 月 21 日～12 月 20 日の日程で「三重大学における生成 AI 利用実態調査 (2024)」を実施した。この調査の目的は、生成 AI 技術が大学内での教育・研

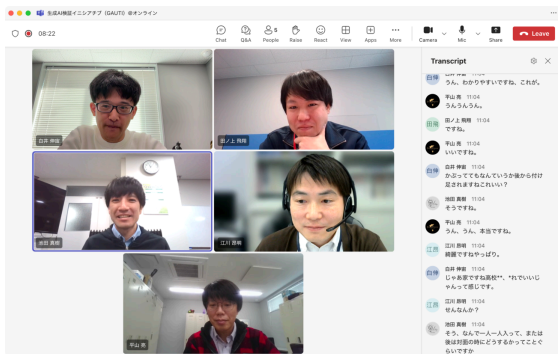


図2 GAUTIの初期メンバー5名によるMicrosoft Teamsの文字起こし機能の検証実験の様子(2024年12月2日)。

究・業務の効率化にどのように役立っているかを把握し、今後の活用方法を検討することである。調査に使用した設問はGitHubリポジトリで公開している[7]。また、回答時の大まかな道筋を示すため、調査に関する簡単な解説動画[8]を作成した。

調査の結果、教員165名と職員154名の計319名(対象教職員の約1割)から回答を得た[9]。回答者の約74%(235名)が生成AIの利用経験があり、利用者の間ではChatGPT(82.5%)、Microsoft Copilot(44.3%)、Google Gemini(38.3%) (複数回答可)の順に使用率が高かった。教育・研究活動に関しては、「生成AIの適切な使用法を授業で扱うべき」「学生のキャリア形成に役立つ」「研究・教育活動の効率が向上する」という意見が支持された。業務面では「業務負担を軽減する」「導入に対する抵抗は少ない」「業務の質は低下しない」という肯定的な意見が多数を占めた。特筆すべき点として、使用頻度が高い教職員ほどこれらの肯定的な意見をより強く支持する傾向が見られた。また、回答者の83.4%が生成AIに関するセミナーやワークショップへの参加を希望しており、学内における生成AI活用への高い関心が確認された。この調査結果を受け、生成AIに関係する勉強会を複数開催し、参加者から高い評価を得た[12, 13]。

4.2 学内ファイル自動処理システムの構築・運用

GAUTIの主要な成果の一つとして、学内クラウドストレージを介したファイル自動処理マイクロサービスの構築と運用が挙げられる[6]。このシステムは、教職員が日常業務で扱うマルチメディアファイルを自動的にテキスト化し、ローカル環境の生成AIと連携して活用できる仕組みを提供している。

システムの特徴は、ユーザが対象ファイルを含むフォルダをサービス提供用アカウントに共有するだけ

で処理が開始され、出力ファイルが同じ共有フォルダに保存される点にある。これにより、ユーザ側の学習コストを抑えつつ、既存の学内クラウドストレージのフロントエンドを活用した管理側の運用負担軽減を実現している。

処理機能としては、音声・動画ファイルの文字起こし、画像・PDFファイルの光学文字認識(OCR)、および抽出されたテキストに対する生成AIによる自動要約が含まれている。すべての処理は学内ネットワーク内で完結するため、機密データを扱う際のセキュリティ上の懸念を解消している。

実証実験では、教職員47名が利用し、特に会議録作成において大幅な業務効率化を実現した。アンケート結果では80%のユーザが満足を示し、93.3%が継続利用を希望している。これらの結果から、学内でのセキュアかつ実用的な生成AI活用基盤として有効であることが確認された。本システムのソースコードはGitHubリポジトリ[10]およびGist[11]で公開しており、他機関での導入・改良を促進している。

4.3 教育・研究・業務運営などの区分ごとのプロンプト集の作成

GAUTIでは、生成AIの活用を学内に広げるための基盤整備として、教育・研究・地域貢献・業務運営といった区分ごとのプロンプト事例集を作成している。本事例集は、これから生成AIの利用を始めようと考えている教職員や学生を主な対象としており、初学者がスムーズに第一歩を踏み出せるよう設計されている。

事例集には、まずプロンプト作成のコツや効果的な汎用表現といった入門的な内容を整理した。これにより、利用者は単にモデルに問いかけるだけでなく、意図した出力を得るためにどのような工夫が必要かを理解できるようになる。

この事例集の作成にあたっては、学内のアンケート調査や勉強会などで寄せられた「どのようなプロンプトを使えばよいか知りたい」「実際に使われている具体例を見たい」といった声を反映した。今後は、アジャイル開発の考え方にに基づき、フィードバックを取り入れながら継続的に更新する予定である。これにより、利用者のスキル向上を支援するとともに、学内における生成AI活用の成熟を加速させることを目指している。

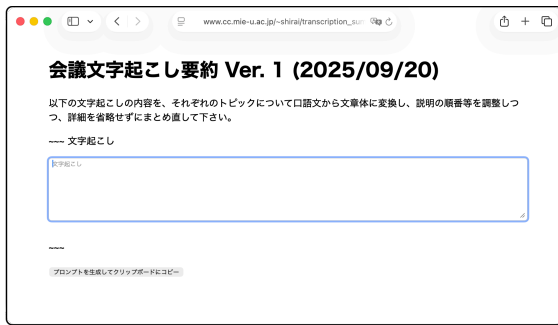


図3 会議文字起こし要約用プロンプトテンプレートの Web ページ画面。テキストボックスの中に文字起こしのテキストを貼り付け、ページ下部のボタンを押すとプロンプトをクリップボードにコピーすることができる。提携業務で使用するプロンプトを作成する時に便利に使える。

4.4 プロンプトテンプレートを活用した会議における生成 AI 活用のモデルケース開発

作成したプロンプト集の知見を応用し、GAUTI では大学の各種会議において生成 AI を効果的に活用するためのモデルケースの構築と標準化に取り組んでいる。このモデルケースは、会議の文字起こし、要約作成、議事録生成、アクションアイテムの抽出を一貫したワークフローとして体系化したものである。

具体的には、会議の録音データを前述のファイル自動処理システムで文字起こしし、生成 AI を用いて構造化された議事録を生成する手順を標準化している。また、参加者の発言内容から重要なポイントを自動抽出し、次回会議への引き継ぎ事項やタスクを明確化する仕組みも組み込んでいる。

これらのプロセスをさらに効率化するため、「プロンプトテンプレートパーサ」という独自ツールを開発・活用している。各種プログラムは GitHub リポジトリ [14] で公開している。このツールは拡張 Markdown で記述されたテンプレートを、インタラクティブな HTML ページに変換し、ユーザが各種入力要素を用いて動的にプロンプトを生成できる仕組みを提供している。具体的なプロンプトテンプレートの例として、会議文字起こし要約用テンプレート [15] を公開しており (図 3)、これにより誰でも一貫性のある会議要約プロンプトを生成できる環境を整備している。

このモデルケースは、GAUTI の定例会議において継続的に実践・改善を重ねており、その効果と課題を検証している。現在、学内の他の委員会や会議体への展開を進めており、会議運営の効率化と記録の質向上を目指している。プロンプト例を含む手順書やチュー

リアル資料を作成し、学内への普及を図っている。

5 成果と今後の展望

GAUTI の活動開始から約 1 年が経過し、複数の具体的な成果が得られている。学内ファイル自動処理システムは継続的なサービス提供を実現し、教職員の日常業務に定着している。また、生成 AI 活用に関するガイドラインや実践的な手法について、学内外への情報発信を通じて知見の共有を進めている。

GAUTI の取り組みは、大学組織における生成 AI 活用の実践例として、教職協働による持続可能な運営モデルを提示している。教職協働による生成 AI 検証の先駆的な事例として、他の高等教育機関における類似の取り組みの参考となることを期待している。GAUTI のロゴやマスコットキャラクター「ゴチ」も CC BY 4.0 ライセンスで GitHub リポジトリ [2] にて公開しており、同種の取り組みを行う機関での活用も歓迎している。将来的には各地に同様の GAUTI が設立され、「全国 GAUTI ミーティング」のような組織横断的な情報共有の場が形成されることで、高等教育機関全体での生成 AI 活用が促進されることを期待している。

参考文献

- [1] Nobu C. Shirai: 生成 AI 活用部会名称案, <https://gist.github.com/nobucshirai/5f80a5b75eae963985001e2577bf3672>, 2024.
- [2] 白井 伸宙: GAUTI のロゴとマスコットキャラクター「ゴチ」の画像公開用リポジトリ, <https://github.com/nobucshirai/GAUTI-logo>, 2025.
- [3] 白井 伸宙: ChatGPT プログラミングのすすめ, https://zenn.dev/nobucshirai/articles/chatgpt_programming, 2024.
- [4] 白井 伸宙: EDUCAUSE カンファレンスの魅力 (Why Not Join the EDUCAUSE Conference?), AXIES Trajectory, vol. 2, pp. 39-44, 2025. <https://axies.jp/trajectory/>
- [5] 生成 AI 活用検証イニシアチブ (GAUTI): GAUTI ウェブサイト, <https://wps.cc.mie-u.ac.jp/gauti/>, 2025.
- [6] 白井 伸宙, 池田 真樹, 田ノ上 飛翔: 生成 AI 活用のための学内クラウドストレージを介したファイル自動処理マイクロサービス、プレプリント, <https://doi.org/10.51094/jxiv.1364>, 2025.

- [7] Nobu C. Shirai: MieU_GenAI_survey_2024, https://github.com/nobucshirai/MieU_GenAI_survey_2024, 2024.
- [8] 白井 伸宙:『三重大学における生成 AI 利用実態調査 (2024)』解説動画, <https://youtu.be/WspQiSgmB8M>, 2024.
- [9] 白井 伸宙:『三重大学における生成 AI 利用実態調査 (2024)』報告, <https://youtu.be/k2qmTjF45tw>, 2025.
- [10] Nobu C. Shirai: textify, <https://github.com/nobucshirai/textify>, 2025.
- [11] 白井 伸宙: summarize_with_ollama.py, <https://gist.github.com/nobucshirai/a24d7c1402c871fe8a90725775421b7b>, 2025.
- [12] 三重大学:事務職員向け生成 AI 勉強会を開催 – ナッジ理論と生成 AI の融合で業務を円滑化, <https://www.mie-u.ac.jp/news/topics/2025/08/ai-ai.html>, 2025.
- [13] 三重大学:業務改革マインドセット勉強会×生成 AI を開催しました, <https://www.mie-u.ac.jp/news/topics/2025/09/post-3787.html>, 2025.
- [14] 白井 伸宙: Prompt Template Parser, <https://github.com/nobucshirai/prompt-template-parser>, 2025.
- [15] 白井 伸宙: 会議文字起こし要約 Ver. 1, https://www.cc.mie-u.ac.jp/~shirai/transcription_summary_v1.html, 2025.